

さぬき市地域公共交通会議（第1回） 会議録

- 1 日 時 平成23年2月2日（水） 9：30～11：10
- 2 場 所 さぬき市役所庁舎附属棟会議室
- 3 出席者 [委 員] 佐藤邦明 平野 通 村井英子 黒河敏則(代)山崎  
赤崎 緑(代)林 吉原正和 橋本 亨 山本 泰(代)河本  
[随 行] 上野尚昭  
[事務局] さぬき市長 大山茂樹  
都市計画課長 橋本安由  
同課副主幹 藤井 浩  
同課係長 松岡 崇  
[傍聴人] 1名
- 4 議 題 (1) さぬき市公共交通検討協議会設置及び経過報告について  
(2) 乗継乗車券の発行について  
(3) 一部路線の時刻表の変更について  
(4) その他
- 5 会議の内容は次のとおりである。

(事務局) 挨拶

(市長) 挨拶

(事務局) 委員紹介

(事務局) 情報公開についての説明

(会長)

それでは、ただ今より議事に移りたいと思います。お手元に配布しております議事次第に従い進めたいと思います。

(事務局)

議題(1) さぬき市公共交通検討協議会設置及び経過報告について説明

(会長)

事務局より説明があり、何かご意見・ご質問ございませんか。

(委員)

要点としまして、交通路線の軸、周辺地域をどのように組み合わせるのか。バスと乗合デマンド双方を活用していこうということですが、都市計画というのが現況にあって、どういう公共交通を走らせるのかということが大事である。乗継という都市計画の部分でパーク＆ライドとかを設置させ、利用が増えるという形になっていくということであれば、都市計画に沿って良いことだと思います。今後の都市計画像を踏まえ、交通網を

どうするのかを考えたらと思います。

(委員)

検討協議会にこれを提出されるのですか。

(事務局)

これは、2回目までの結果報告。2回目の協議会時に、3パターンを提示し、併用型で検討するという事です。

(委員)

パターン2で行うことですね。

(事務局)

これまでの協議会では、パターン2・併用型。それにもなって、委託料7千万円弱、収入を差し引いた一般財源4千5、600万円が支出、そのあたりを抑えて、効率よくする。今の路線網を再編したうえで、それに対する費用がいくら掛かるのかを各事業者にお伺いしている状況です。タクシー事業者においては営業分野でもあり、ドアtoドアは困るというご意見です。今の定時定路線バスであるコミュニティバスの運行部分をタクシーへ転嫁させ、実証実験を行うのであれば協力できるとのこと。また、実態調査においても近年タクシー利用も減っており、高齢者が近距離で買い物・病院に利用され、1乗車料金が1千円程度という状況のようです。

(委員)

今の説明では路線変更など、乗降の少ない箇所などを踏まえ、思い切った転換が必要である。この地域公共交通会議は県下、全て設置されているのですか。

(委員)

協議会など要綱を設置しているところは全部ではありません。

(委員)

三木町、坂出、丸亀市。

(委員)

三豊市、まんのう町などもあります。検討協議会ではなくて、今、走らせている4条許可運行に関するものがあります。路線の変更をする場合に審議を行うための形です。今の路線を変更するための会議。

(委員)

交通会議のメンバーは、自治体と事業者及び利用者。

(委員)

構成員には、自治体市町、運輸支局、バス等事業者、事業組合及び住民。

(委員)

さぬき市では、この検討協議会は今回で3回目。この検討協議会の位置付けは、どのように考えているのですか。

(事務局)

公共交通会議とは別の組織。検討協議会の中で、実証実験をやるとか、ダイヤ改正をするなどが決まったら、この会議に諮り承認後、運輸支局へ申請する形になり、検討協議会とは、あくまで任意団体。この会議は法的な組織であり、本市の場合、これまで検討協議会が無く、この会議にてコミバスの見直しなどを協議していただいていたが、3回目の本会議開催のあり、委員の増員など広く意見を聞き、さぬき市に相応し公共交通会議を設置すべきとの意見を賜り、昨年設置し、これまでの成果なり指摘事項を、今日ここで報告させていただきました。また、今後の国の補助金等の見通しがついておりませんが、できればその補助金を活用しながら、連携計画策定資料を作成し、実証実験を行いたいのが本音であります。

(委員)

補助金ですが、国などによる『サバイバル事業』。

(委員)

今まであった補助金が一本化になっていく。それに該当するのであれば、補助金を使って頂けるのではないかと。本来の趣旨では、地域公共交通会議というのは、検討協議会も含めてですが、こういう姿であるべきだと思います。他の公共交通会議というのは、路線の認可を受けるが為に行っている。あまり地域の公共交通に関する検討がなされていない。

(委員)

今のコミバスの補助金は。

(事務局)

本年、県の補助金は870万円程度、昨年は900万円余りでした。昨年の土・日運休した関係により収支率が減り減額となっております。県補助金は、収支率によって補助金が変わってきます。収支率が悪ければ補助金も減ります。現在、コミュニティバスには補助金が出るけれども、デマンド交通においてはいかがでしょうか。

(委員)

事例がないので、今後、どのようになるのか。今、国の補助金制度が大きく変わろうとしている時期なので、はっきりしていない。国、県も含めて。

(委員)

運行・事業主体はあくまで、さぬき市。どのような形の補助金制度になろうとも地方分権の時代。これからはさぬき市へ直接補助金が、降りてくるのでは。

(事務局)

これまでの地域総合連携計画による補助金より全国各地で、その連携計画を作成し実証実験などを行っている。今、補助金が一括にされ、今後の動向が見極められない状況です。

(委員)

いつ頃を目途に、市の計画とか見直しは。

(事務局)

本年度の方針により来年度から具体的に、どの地域にデマンド・コミバス、それに伴うダイヤ・ルートなど議論を重ね、また、地域との協議をも踏まえて、一部の路線からでも実証実験を行いたいと考えております。

(委員)

路線変更程度であれば低価格で実施できるのでは。

(事務局)

他の市町村でやっているような高額なソフトやメンテ費用などは掛けず、市内6社のタクシー事業者による組合などを組織していただき、その受け皿により既存の無線などを使って努力して行きたいと考えます。

(委員)

まんのう町は、商工会へ全部委託していますが。

(事務局)

資料によりますと、初期投資額で約1,500万円、それで運行費が車両3台で平日のみ240日運行、8時間拘束、時間2,200円で約1,300万円、オペレーター2名で300万円、システム保守費100万円、通信費80万円。初年度で約3,200万円、次年度で約1,800万円の運行経費が必要と計画されていました。

(委員)

旧町各事業者に全域の運行をお願いしているのか。

(事務局)

各運行エリアがあります。

「仲南」から「まんのう」へ行くのであれば、乗継ポイントにより、仲南タクシーからまんのうタクシーに乗り換えて目的地に行く。

(委員)

さぬき市への導入は。

(事務局)

難しい。

(委員)

まず、ダイヤの見直し、それによってコミバス平日6台が4台。実績の上がないバス停・ルートを省く。それによって台数を減らすなど。抑えるところは抑えて、実証実験などで色々考えてみる。バスとタクシーとをまず見直し、費用を抑えられる方向ですね。利用者のピークは。

(事務局)

ピークは、平成19年度で15万5千人。今年度は1月末現在で7万5千人ですから、10万人程度になると思われます。

(委員)

一般の公共交通のように景気が悪いから、コミバスに乗車しないということはない。

(事務局)

ほとんどの利用者の方は、回数乗車券を購入。

(委員)

例えば、現行の運行ルートで、本当は車には乗りたくないけれども、高齢者等で需要が新たに掘り越せるような評価みたいなものはあるのですか。

(事務局)

廃止された地区の住民によりますと、車には困っていないと。高齢者が乗り合わせて生活されているとお伺いしている。危険を伴うのですが、コミバスなどを導入しても乗るかどうか。また、バス利用をしている大半は、病院、買い物、通学です。どの路線についても、午前中に行って、午前中に帰るといった具合。利用者の必要な時間帯というのは、同じではないでしょうか。

(委員)

利用している方に聞きますと、バスが無いと困ると。また、休日などイベント時に走らせてもらえないのか。

(事務局)

検討協議会でもご意見がありましたが、主催者で考えるのが1つの方策ではないでしょうか。

(委員)

運行自体はできるとは思いますが、ここでいう公共交通体系を考えるうえでは違うと思われる。

(委員)

病院への直通があれば便利だが。

(委員)

実証実験を行い、コミバスやタクシーなどで組み合わせをしたら良いと思います。事業者間の棲み分けが必要だと思います。

(委員)

なるべく利用できるような仕組み、バスルートとかを考えていただきたい。

(会長)

皆さんのご意見が出そろいましたので、今後、引き続き議論をお願いして、次の乗継乗車券の発行について事務局説明願います。

(事務局)

議題(2)乗継乗車券の発行について説明

(委員)

乗継が2回になるところはありますか。

(事務局)

一部あります。津田方面から大窪寺方面へ行く場合に2回の乗継が必要となります。

(会長)

事務局の説明で、何か質問ございますか。

(委員)

乗継券を始めると、例えば、市民病院への直通路線などの対応は。

(事務局)

今、検討協議会の中で、目的地を市民病院、各支所といった中核施設を中心とした路線を結び、市民病院への直通は現在検討している状況です。

路線図掲示

(事務局)

現在の(案)ですが、本庁・各支所及び市民病院を循環させる右・左廻り、大窪寺への観光ルート、小田方面、猪塚・津田経由市民病院、鶴羽・津田経由市民病院及び小田・鴨部経由市民病院。計7ルートバス及びタクシー運行による実証実験などを踏まえながら導入したいと考えております。

(会長)

有難うございました。それでは、先程の事務局からの説明で、3月1日からの乗継乗車券を実証ということによろしいでしょうか。

(委員)

400円のところが200円で行けるのであれば、また、乗継が不便という所もあるのであれば、実証してみましよう。

(会長)

事務局お願いします。引き続き議題(3)一部路線の時刻表の変更について事務局説明願います。

(事務局)

議題(3)一部路線の時刻表の変更について説明

(会長)

事務局からの説明がございましたが、何かご質問ございますか。

(委員)

待ち時間等、他のルート・ダイヤ、この路線だけですか。

(事務局)

この路線だけです。なお、JRによる3月のダイヤ改正についても確認しており、つきましては、今回この路線のみです。

(会長)

それでは、一部路線の時刻表の変更については、利用者に十分にお知らせをしたうえで、実施願います。続きまして、議題(4)その他何かありますか。

(委員)

受託事業者から、さぬき市が中心となり、これまでの協議会等の中で議論を重ねながら、

最終的な結論を調整し、概ねまとまった時点で、この公共交通会議に提案したいと考えております。

また、都市計画像を見据えながら、本庁、各支所の5つを結び、定時路線などを編成し、公共交通の一端を担っていくという考えが基本となり、デマンド交通等実証実験に取り組み、実用的な地域から導入していく考えであります。そして、15万人を目標に利用者の増員を考えていきたいと思っております。

今後、市民のみなさんが喜べる公共交通にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

(委員)

検討協議会での結論が、この会議では検討されるのでしょうか。

(事務局)

こちらが上位。ここが最終事務機関です。

(委員)

主に、コミバス運行のことになるので、同意を得るということが必要となります。検討協議会はあくまで任意団体であり、協議会の意見を地域公共交通会議に諮り、初めて新たな認可が受けられるということになりますので、最終的には、この会議の合意が必要です。

(委員)

協議会や事前協議の各委員は、実態を熟知しておられる方々ばかりなので、間違った方向に結論はでないとは思いますが、かなり厳しいという声も聞こえておりますので。

(委員)

お金の面においても、運用の面においても厳しいので、どうかご理解願います。

(会長)

他にございませんか。これで本日の議事については、すべて終了致しましたので、第1回さぬき市地域公共交通会議を閉会します。ご審議有難うございました。

閉会